

# 第33回 少年の主張 甘楽町大会

第33回少年の主張甘楽町大会が6月28日、町文化会館で行われました。甘楽中学校の代表生徒11人は、家庭や学校生活・社会の中での体験や心に感じていることを発表。自分の考えや希望をしっかりと話す姿に、会場から大きな拍手が送られました。審査の結果、最優秀賞には山口めぐさん(3年)が選ばれました。山口さんは8月3日に高崎市榛名文化会館エコーホールで行われる西部地区大会に甘楽町代表として出場します。

## 最優秀賞

### 高齢者から学ぶ戦争

甘楽中3年

山口めぐ



みなさんは、戦争を知る世代から、戦時中の話を聞いたことはありますか。私は祖父から、今までに何度か、祖父が体験した戦争の話を聞いたことがあります。初めてその話を聞いた時の大きな恐怖と、自分のからだに走った衝撃は今でも忘れられません。小学生の頃は、祖父が戦争や空襲について語り出す度に怖くて、「もう、聞きたくない。」と、何度もその場を立ち去りたくまりました。しかし、七十四年前のあの日、あの時を生きて、その出来事について語れる高齢者は、今はもうそう多くはありません。私たちは今、本当の戦争を先人から知り、それを後世に

り継ぐ義務があるのではないのでしょうか。

私には、昭和十一年生まれで、戦争が始まった当時、九歳だった、現在八十三歳の祖父がいます。

そんな祖父が、以前話してくれたいくつかの話の中で、特に印象に残っているものがあります。「じいちゃんが小さい頃なあ、夜、屋根の上の上って、南の方の空を見たら、夜なのに空は真っ赤で、まるで、きれいな夕焼けのようだった。」

昭和二十年三月、東京大空襲の話。その時、ここから、南の方角にある東京は火の海で、その真っ赤な火の海の水が引けたのは、それから何日も後だったそうです。当時も、現在と同じく、百万を超える人々が暮らしていたであろう大都市東京が、火の海になっている、想像するだけで、ゾッとします。

祖父は私に戦争について話す時はいつも、表情や手の動きでも自分が体験したことを表現します。そしていつも決まって言うのは、「戦争は恐ろしい。戦争はしっちゃあいけない。」

私は、実際に祖父から話を聞いたことで、本当の戦争の形が少し

ずつ見え、自分はそんな経験を絶対にしたくない、この悲劇を、もう二度と繰り返してはならないという思いが、ますます強くなりました。

令和元年五月一日。時代がかわったテレビの画面では、道を行き交う街の人々が、インタビューを受けていました。その中で、「令和も、戦争のない、平和な時代になってほしい。」といった声が多く聞かれたように感じます。戦争がなければ、大切な人や自分の命を戦争で失うことも、戦争によって貧しい生活を強いられるたり、食料不足に苦しめられたりすることもありません。そのように考える誰もが皆、戦争のない、平和な世を望むでしょう。しかし、それは願望に過ぎません。これを実現させるために必要なことは何でしょうか。

それは、私たち自身が、戦争について知る意欲を持ち、戦争を知ること、そして、それを後世に見出すこと、そして、それを後世に語りつぐことです。本当の戦争はきつと、私たちが思うより何倍も、何十倍も恐ろしく、悲しみに満ちあふれたものなのだと思います。本当の戦争の形を考えることで、戦争に対する思いが、より

私たちが、その努力をしなくてはなりません。そのために私は、これからも祖父が語る戦争の話から、本当の戦争とはどのようなものだったのか、考え、それを笑顔が絶えない未来へのメッセージと共に、数十年後の時代を生きる人に伝えたい。

みなさんも、戦争を生き抜いた高齢者から戦争を学びませんか。戦争のない、平和で明るい未来をつくる、第一歩を踏み出すために。

## 優秀賞10人

右から発表順(敬称略)



甘楽の魅力

青木 柚月 (1年)



最後の部活

大小原 あい (3年)



私が死んだら

武田 夏帆 (3年)



選抜に入って

三森 亜紀 (3年)



大切な一冊

飯塚 雪未 (2年)



神様が僕に教えてくれたこと

金井 俐樹 (1年)



ろう者と聴者

飯塚 美月 (2年)



「ありがとう」の輪を広げる

今井 彩香 (3年)



生きていく力

市川 史悠 (2年)



祖父母からの願い

山田 咲楽 (3年)

## 校歌など全4曲、大会に華を添えた素晴らしい演奏



アトラクションで演奏を披露した甘楽中吹奏楽部

### ◎審査員講評(近藤教育長)

今回は、家族とのかかわりの中から自分で考えた発表が多く、自分への思い、家族への思い、そして、社会への思いを堂々と主張した素晴らしい発表でした。貴重な体験となったことと思います。発表した思いをしっかりと持ち続けて、自分の将来や家族、地域や社会のために役立ててもらいたい。新しい時代の中で、一人一人が個性を磨き、自分らしくたくましく生きてほしい、社会の一員としての自覚を高め、成長してほしいと願っています。

### 最優秀賞インタビュー

町大会の目標は、新しい令和の時代に向けて、同じ世代に向けて、自分の意見を発信することでした。西部地区大会では、より多くの人の心に響く発表ができるよう、自分自身もさらに考えを深めていきたいです。

強くなるのではないのでしょうか。沖縄県平和祈念資料館展示の結びの言葉の中に、こんな言葉があります。

「戦争をおこすのは たしかに人間です

しかし それ以上に戦争を許さない努力のできるのも私たち 人間 ではないでしょうか」

私たちは、その努力をしなくてはなりません。そのために私は、これからも祖父が語る戦争の話から、本当の戦争とはどのようなものだったのか、考え、それを笑顔が絶えない未来へのメッセージと共に、数十年後の時代を生きる人に伝えたい。